

# 伐採後の造林に係る森林の状況報告書

年 月 日

富士市長 様

住 所

報告者 氏 名

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

連絡先

年 月 日 に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採を実施したので、森林法第10条の8第2項の規定により報告します。

## 1 森林の所在場所

富士市	大字	字	地番
-----	----	---	----

## (2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の方法	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の造林本数	作業委託先	鳥獣害対策
人工造林		年 月 日～ 年 月 日		ha	本		
天然更新		年 月 日～ 年 月 日		ha	本		

## 2 備考

--

## 注意事項

- 1 報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 2 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 3 造林の方法欄には、人工造林による場合には植栽又は人工播種の別を、天然更新による場合にはぼう芽更新又は天然下種更新の別を記載すること。
- 4 樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 5 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 6 人工造林による場合において、複数の樹種を造林したときは、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の造林本数欄には、造林した樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 7 天然更新による場合においては、造林樹種欄には代表的な樹種を、樹種別の造林面積欄には天然更新に係る区域全体の面積を記載すること。また、更新調査の結果又は造林地の写真その他の更新状況を明らかにする資料を添付する場合には、樹種別の造林本数欄には、「別添のとおり」と記載することができる。
- 8 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。

住 所 \_\_\_\_\_

市町名： \_\_\_\_\_ 富士市

造林者氏名 \_\_\_\_\_

連絡先 \_\_\_\_\_

森林の所在場所								造林の計画						伐採跡地の用途 *3	備考
林班	準林班	小班	枝番	大字	字	地番	枝番	造林の期間	造林の期間 (5年後において*3の用途に供されないとき)	造林樹種 *1	樹種別の造林面積 (ha)	樹種別の植栽本数 (本)	作業委託先		
計											0.00	0			

\*1 富士市森林整備計画で指定している樹種（すぎ、ひのき、くぬぎ、こなら、けやき、あかまつ、くろまつ）を記載すること。

\*2 防護柵、幼齢木保護具など記載。

\*3 伐採が終了した日から起算して5年以内において、森林以外用途に供される場合に記載する。

	面積(ha)	本数(本)	ha本数(本)
ひのき			2,000
すぎ			2,000
広葉樹			1,800
まつ類			3,000
計	0.00	0	